



2008年度決算説明会 決算概要と業績予想



社長 廣瀬 博

2009年5月12日

2008年度決算概要

2008年度業績

	2007年度	2008年度	前期比
売上高	1兆8,965億円	1兆7,882億円	△1,083億円
営業利益	1,024億円	21億円	△1,003億円
経常損益	928億円	△ 326億円	△1,254億円
純損益	631億円	△ 592億円	△1,222億円
特殊要因を除く 実質ベースの純損益	(343億円)	(△ 453億円)	(△796億円)
年間配当金	12円	9円	
ナフサ価格	61,500円/kl	58,900円/kl	
為替レート	114.44円/ドル	100.71円/ドル	

2008年度 売上高分析

(単位:億円)

	2007年度	2008年度	前期比	売価差	数量差
基礎化学	3,147	2,400	△747	△180	△567
石油化学	6,033	5,530	△504	+110	△614
精密化学	929	808	△122	+20	△142
情報電子化学	2,975	3,071	+96	△210	+306
農業化学	2,004	2,222	+218	+90	+128
医薬品	2,376	2,356	△20	△105	+85
その他	1,501	1,495	△5	0	△5
全社合計	18,965	17,882	△1,083	△275	△808

海外売上高	7,888	7,498	△390
海外売上高比率	42%	42%	-

2008年度 営業利益分析

2007年度 1,024 億円 → 2008年度 21億円 (Δ1,003億円)

(単位: 億円)

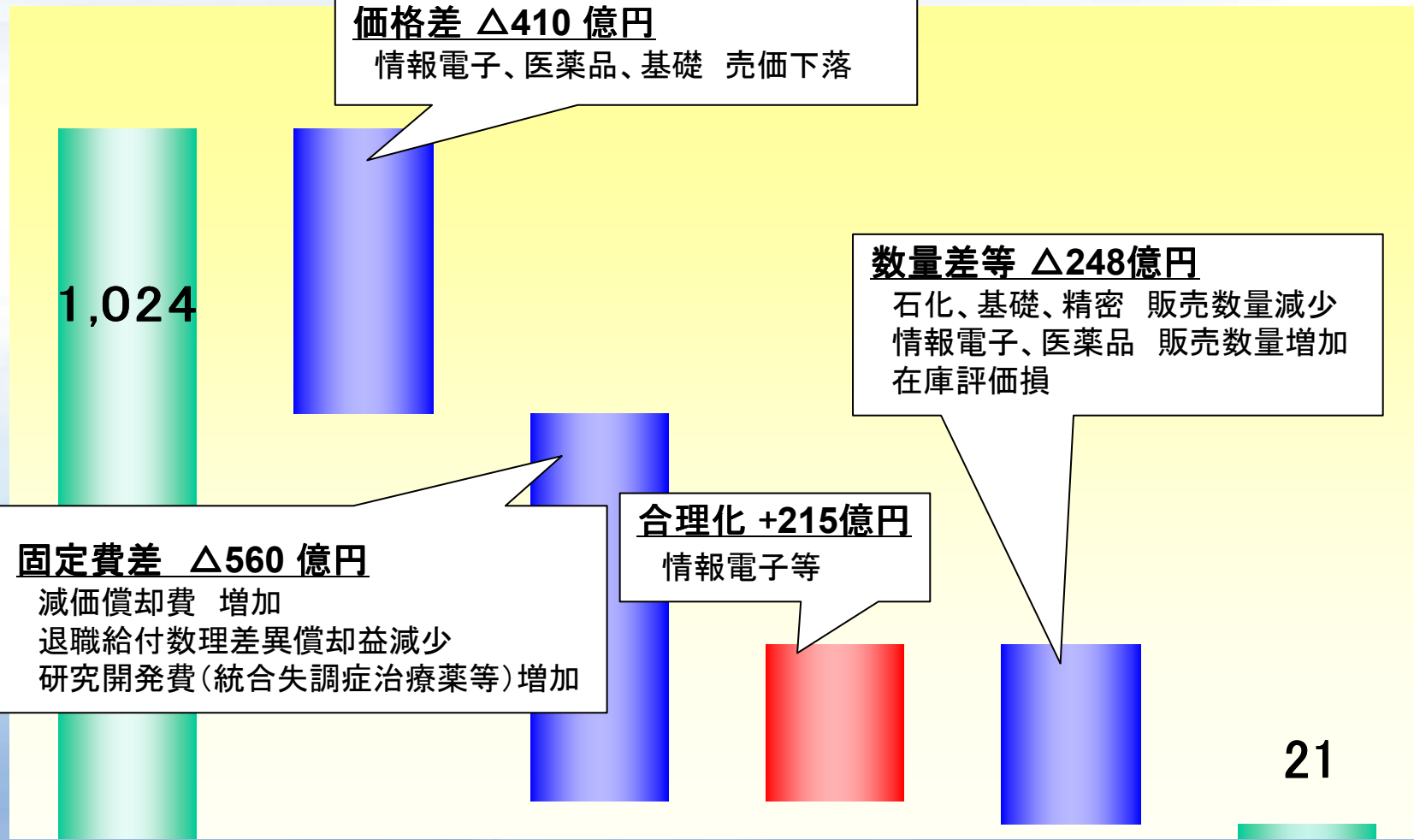
1,200

900

600

300

0



2007年度

2008年度

2008年度 部門別営業利益

(単位:億円)

	2007年度	2008年度	対前期比	主な利益増減要因
基礎化学	106	△153	△259	<ul style="list-style-type: none"> ・需要大幅減少 ・市況下落
石油化学	45	△303	△349	<ul style="list-style-type: none"> ・需要大幅減少 ・在庫評価損
精密化学	114	16	△98	<ul style="list-style-type: none"> ・販売数量減少 ・円高
情報電子化学	63	△10	△73	<ul style="list-style-type: none"> ・販売価格下落 ・研究開発費一時的増加
農業化学	209	244	+35	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬 販売数量増加 ・飼料添加物 販売価格上昇
医薬品	465	324	△141	<ul style="list-style-type: none"> ・薬価改定 ・研究開発費増加
その他	22	△97	△118	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発費増加
全社合計	1,024	21	△1,003	

2008年度業績

	2007年度	2008年度	前期比
売上高	1兆8,965億円	1兆7,882億円	△1,083億円
営業利益	1,024億円	21億円	△1,003億円
経常損益	928億円	△ 326億円	△1,254億円
純損益	631億円	△ 592億円	△1,222億円
特殊要因を除く 実質ベースの純損益	(343億円)	(△ 453億円)	(△796億円)
年間配当金	12円	9円	
ナフサ価格	61,500円/kl	58,900円/kl	
為替レート	114.44円/ドル	100.71円/ドル	

特別損益、法人税等調整額の一時的要因

(単位:億円)

	(税引前)	(税引後)
(特別損益)		
退職給付信託設定益	148	89
減損損失	△ 208	△ 125
(法人税等調整額)		
繰延税金資産取崩	—	△ 196
繰延税金負債取崩	—	93
(計)	(△ 61)	(△ 139)

2009年度業績予想

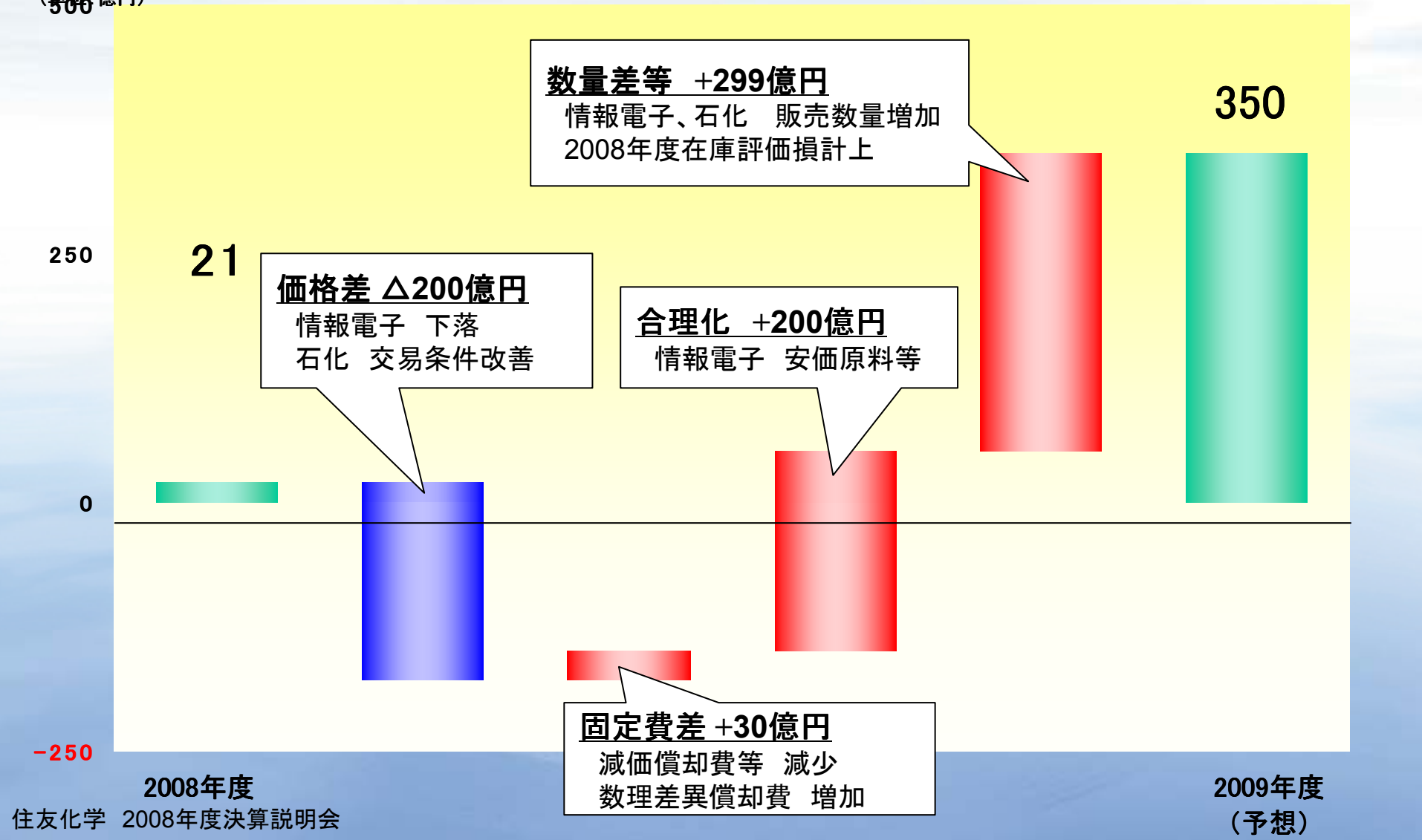
2009年度業績予想

【 連 結 】	2008年度	2009年度	前期比
売上高	1兆7,882億円	1兆6,200億円	△1,682億円
営業利益	21億円	350億円	+329億円
経常損益	△ 326億円	300億円	+626億円
純 損 益	△ 592億円	100億円	+692億円
特殊要因を除く 実質ベースの純損益	(△ 453億円)	(100億円)	(+553億円)
年間配当金	9円	未定	
ナフサ価格	58,900円/kl	35,000円/kl	
為替レート	100.71円/ドル	95円/ドル	

2009年度 営業利益分析

2008年度 21億円 → 2009年度 350億円(+329億円)

(単位: 億円)



2009年度 部門別売上高・営業利益

(単位:億円)

		2008年度	2009年度	前期比	主な営業利益増減要因
基礎化学	売上高	2,400	2,000	△400	2008年度 在庫評価損計上 交易条件改善
	営業利益	△153	△85	+68	
石油化学	売上高	5,530	5,050	△480	販売数量増加、交易条件改善 2008年度 在庫評価損計上
	営業利益	△303	20	+323	
精密化学	売上高	808	750	△58	販売数量増加 2008年度 在庫評価損計上
	営業利益	16	40	+24	
情報電子 化学	売上高	3,071	2,550	△521	販売数量増加、合理化、減価償却 費減少、売価低下
	営業利益	△10	0	10	
農業化学	売上高	2,222	2,100	△122	販売数量増加 円高
	営業利益	244	250	6	
医薬品	売上高	2,356	2,300	△56	退職給付数理差異償却費増加 研究開発費増加
	営業利益	324	170	△154	
その他	売上高	1,495	1,450	△45	減価償却費減少
	営業利益	△97	△45	+51	
全社	売上高	17,882	16,200	△1,682	
	営業利益	21	350	+329	

2009年度業績予想

【 連 結 】	2008年度	2009年度	前期比
売上高	1兆7,882億円	1兆6,200億円	△1,682億円
営業利益	21億円	350億円	+329億円
経常損益	△ 326億円	300億円	+626億円
純 損 益	△ 592億円	100億円	+692億円
特殊要因を除く 実質ベースの純損益	(△ 453億円)	(100億円)	(+553億円)
年間配当金	9円	未定	
ナフサ価格	58,900円/kl	35,000円/kl	
為替レート	100.71円/ドル	95円/ドル	

財務体質改善への取り組み

(単位:億円)

- 設備投資の厳選

08年度: 1,341億円

09年度: 1,100億円(08年度比 Δ 241億円)

- 棚卸資産の削減

08/12末: 3,704億円

09/3末: 3,357億円(08/12末比 Δ 347億円)

2009年度: ラービグ計画稼動にともなう在庫増加

- 有利子負債残高

08/3末: 6,739億円

09/3末: 7,954億円(08/3末比 +1,215億円)

10/3末: 8,500億円(09/3末比 +546億円)

ラービグ計画稼動にともなう運転資金増加等

トピックス

ラービグ計画の稼動状況

(生産)

- 商業運転開始
- 早期のフル稼動に向けて
順調に操業中



(販売)

- 石油化学製品の住化アジア向け出荷開始
- 住化アジアによる販売 第3四半期フルベースへ

ラービグ第2期計画

- サウジ・アラムコと共同企業化調査、事業性判断
- 2010年第3四半期完了予定

(企業化調査の前提)

主原料 エタン 30百万立方フィート/日 新たに確保

ナフサ 3百万トン/年 既存石油精製設備から供給

製品 EPR、TPO、MMAモノマー、PMMA、LDPE/EVA、
カプロラクタム、ポリオール、キュメン、
フェノール/アセトン、アクリル酸、SAP、ナイロン6樹脂

- 事業性確認後、建設着手
- 2014年第3四半期までの操業開始日途

研究開発

高分子有機EL

- 高分子有機ELの液晶ディスプレイに対する優位性
 - ◆ 高画質(高コントラスト、高速応答性、広視野角等)
 - ◆ 低消費電力
 - ◆ 自発光、バックライト不要、シンプルなディスプレイ構造
 - ◆ ディ스플레이のフレキシブル化が可能
将来Roll to Roll製造の可能性
- 高分子有機ELの低分子有機ELに対する優位性
 - ◆ 大型ディスプレイの製造が可能
 - ◆ 製造の低コスト化が可能
 - －「印刷法」vs「真空蒸着法」

高分子有機EL

- 事業化への取り組み
 - ◆ 2007年 CDT社買収
 - ◆ 2008年 デバイス開発センター設置

パネル量産技術の開発を加速

発光材料の長寿命化、高発光効率化など性能向上が大幅に進展

- ディスプレイ、照明分野においてパートナーと協力して開発

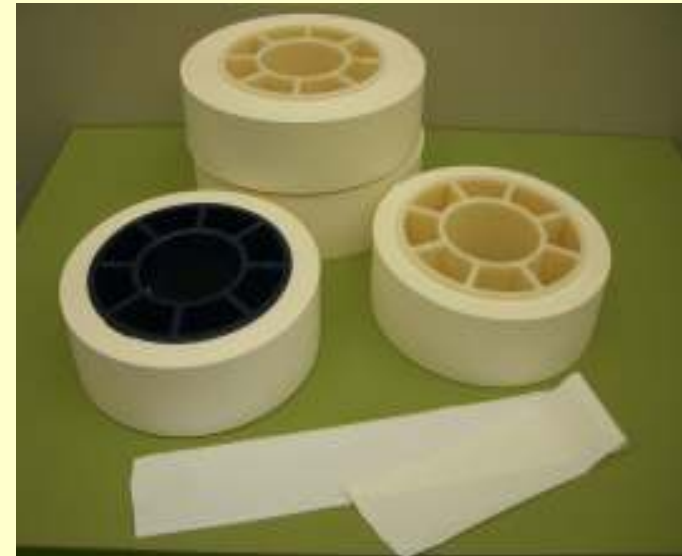
高分子有機ELの早期事業化へ



電池材料

● リチウムイオン二次電池用耐熱セパレータ

- ◆ 優れた信頼性、耐久性
- ◆ モバイル機器用途の需要増加
- ◆ 2008年度1,600万m²、2009年度2,500万m²へ能力増強
- ◆ 2009年1月 電池部材事業部
(情報電子化学部門)を設立
- ◆ 自動車用途の開発を加速



● リチウムイオン二次電池用高性能正極材

- ◆ 従来の正極材より高出力、ハイブリッド自動車、電気自動車用途見込む
- ◆ 稀少金属コバルトを使用しないで高性能を達成
- ◆ 本年度実用化へ向けて顧客評価中



統合失調症治療剤ルラシドン

- 米国・欧州・日本などで統合失調症を対象とした第Ⅲ相試験を実施中
 - 主な既存薬と比較し、同等以上の有効性、安全性を期待
 - 米国で**2012年**に発売予定
 - 米国市場：**139億米ドル（2008年）**
 - 米国での開発機能を強化、自社販売の体制整備を計画
-
- 双極性障害のグローバル第Ⅲ相試験を**2008年12月**開始

新たな経営戦略の策定に向けて

- 10～20年後を見据えた外部環境の分析と、長期的な経営ビジョンの構築
- 事業基盤強化の観点に立った経営戦略の立案
 - ◆ 事業構造の改革
 - ◆ 生産技術の強化
 - ◆ エネルギー・環境戦略の策定
 - ◆ ハイブリッド・ケミストリーの一層の推進による、重点分野における研究開発の加速
- 長期ビジョン実現に向けて、次期中期経営計画（2010～2012年度）を策定

グローバルカンパニーとしてのさらなる飛躍



注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。